

【6月の気象】

- ▷ 6月は梅雨の時期となり、愛媛県では年間の降水量が最も多くなります。
- ▷ 6月に台風が接近することもあります。6月に四国地方へ接近する台風の数、平年値で0.3個です。これは、おおよそ3年に1回は台風が接近することを意味しています。
- ▷ 梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込むと、前線の活動が活発化し、大雨災害をもたらすおそれがあります。梅雨前線に台風や熱帯低気圧が接近するような場合は特に注意が必要です。
- ▷ 梅雨前線が長期間停滞すると、大雨以外でも低温や日照不足により農作物に被害が発生することがあります。
- ▷ 梅雨前線の活動が弱く空梅雨になると、盛夏期は水不足となる懸念があります。
- ▷ これから盛夏期にかけて気温が高くなります。気象台では、当日または翌日の最高気温が35℃以上になることが予想される場合は「[高温注意情報](#)」を発表し、熱中症への注意を呼びかけます。

農業に影響するこの時期の気象と天候

現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
大雨	梅雨前線	農業施設の管理	天気予報 、 気象情報 、大雨に関する 警報 ・ 注意報 等
高温 少雨 長雨（多雨） 日照不足 長期の低温 長期の高温	暖気の流入と日照 平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間またはそれ以上に長く続く	農作物の管理 健康管理	天気予報 、 高温注意情報 、各現象に対する 天候情報 、 2週間気温予報 、 早期天候情報 、 週間天気予報 、 季節予報

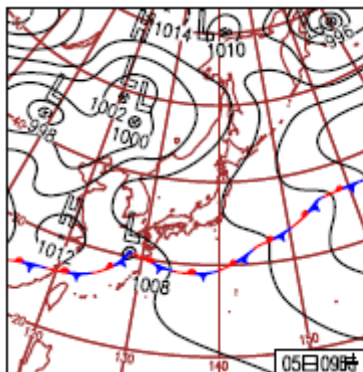
【気象用語】「梅雨」とは

梅雨（つゆ）とは、晩春から夏にかけて、曇りや雨の日が多くなる現象またはその期間のことです。

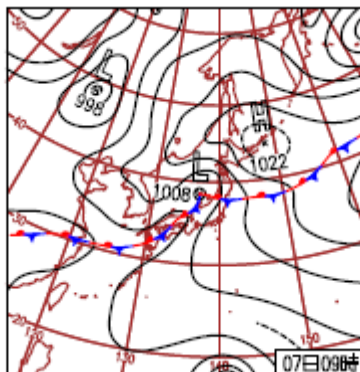
この梅雨をもたらす梅雨前線（ばいうぜんせん）は、太平洋高気圧に伴う湿潤・温暖な気団と、中国大陸の乾燥・温暖な気団あるいはオホーツク海周辺の湿潤・冷涼な気団との間に形成され、日本から中国大陸付近に停滞します。日本では通常、5月上旬に梅雨前線が位置する沖縄地方から梅雨入りし、梅雨前線の北上に伴って九州や四国、本州も梅雨入りします。

梅雨前線上の低気圧が東へ進む場合、その東側では前線が雨域を伴って北上し、西側では南下する傾向があります。このようにして、梅雨前線はその一部で南北動を繰り返しながら日本付近をゆっくり北上するため、梅雨の地域が移動していきます。太平洋高気圧の縁を回る湿った空気や台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込むと、梅雨前線の活動は活発化します。その場合、前線の近傍となる地域では大雨となり、特に梅雨末期には集中豪雨による大雨災害につながることもありますので、注意・警戒が必要です。

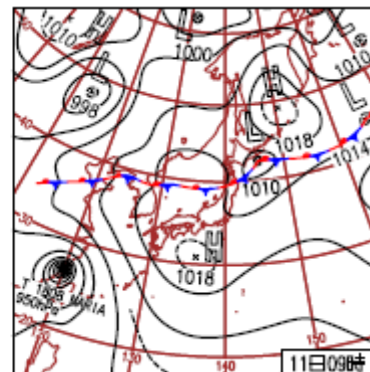
四国地方における梅雨入り平年値は6月5日ごろ、梅雨明けは7月18日ごろです。



四国地方が梅雨入りした頃の
地上天気図(2018年6月5日)
太平洋高気圧の張り出しは弱く、
梅雨前線は本州の南に位置する。



西日本が梅雨末期となった頃の
地上天気図(2018年7月7日)
西日本各地で記録的な大雨災害
が発生した(平成30年7月豪雨)。



西日本が梅雨明けした頃の
地上天気図(2018年7月11日)
太平洋高気圧の勢力が強まり、
梅雨前線は日本海へ北上した。